

第2回高萩市立小中学校適正規模・適正配置検討委員会の開催結果

- 1 日 時 令和4年7月29日（金）午後2時～午後3時30分
- 2 場 所 高萩市役所4階大会議室
- 3 出席委員 9名
加藤崇英委員長、稲野邊親委員、今橋優子委員、綿引このみ委員、
徳永彩香委員、斉藤えり奈委員、大武時男委員、篠原智子委員、今川敏宏委員
- 4 欠席委員 7名
小池洋一副委員長、八重樫弘子委員、岡部晃美委員、坪栄樹委員、
大足光司委員、田邊主計委員、小室博子委員
- 5 出席職員 大森壮一教育部長、岩間英人学校教育課長、
小森日路子教育総務課長、豊田長教育総務課課長補佐
- 6 内 容 議題
(1) 基本方針骨子（案）について
(2) 小規模校のメリット・デメリットについて
(3) アンケート結果（教職員対象）の中間報告
- 7 配布資料 資料1 基本方針骨子（案）
資料2 小規模校のメリット・デメリット
資料3 教職員対象小中学校の適正規模等に関する意識調査（単純集計）
資料4 補助資料

8 会議の概要

(1) 議題

(ア) 基本方針骨子（案）について

今年度策定する「高萩市立小中学校適正規模・適正配置基本方針」の骨子を示し、検討委員会での今年度の目的を共有した。

委員からの質問等は無かった。

(イ) 小規模校のメリット・デメリットについて

文部科学省中央教育審議会の「小・中学校の設置・運営の在り方に関する作業部会」で配布された資料及び高萩市教育委員会が実施した「教職員対象の小中学校適正規模に関する意識調査」の結果より、小規模校のメリット・デメリットについて意見交換を行った。

委員から以下のような意見があった。

- ・地域にとって学校が無くなるのが問題。学校が無くなった場合のデメリットの資料が無いので判断ができない。
- ・教育の問題と地域の問題が対立してしまっはいけない。
- ・法律上の学校の標準規模を当てはめると市内1校になるが、現実的には問題がある。
- ・子ども達、市民及び保護者が何を求めているのか、現場は子どもの環境の何に危機感を持っているのかを知ることが大事。
- ・子どもの力で地域が活気づくということもある。
- ・デメリットはICTを活用してカバーできるものもある。
- ・小規模校のデメリットをメリットに変え、さらにメリットを伸ばす方策の検討が大事。

(ウ) アンケート結果（教職員対象）の中間報告

令和4年6月に実施した、高萩市立小中学校に勤務する教職員を対象とした意識調査の単純集計値を示した。今後、必要に応じてクロス集計を実施し、検討委員会での議論の参考とする旨を説明した。

委員からの質問は無かった。